

【こうち型集落営農の取り組みについて】

B： 私は本山町吉延で本山町ブランド米「土佐・天空の郷」の栽培と、嶺北土佐赤牛の飼育をしています。

私たち吉延営農組合は、機械の共同利用や生産基盤整備など、協力し合って集落営農に取り組んでいます。機械投資の経費や労働力の負担も減ったうえ、何より地域のつながりが強くなったような気がします。

向かいの集落からは吉延集落が一望でき、広がる棚田の美しさを改めて痛感し、将来につなげていかなければと思いました。しかし、田んぼの面積より斜面の面積が広く、草を刈ることは容易なことではありません。せめて1年に1度は草刈りをしないと美しい棚田は維持できないと思います。またこれ以上耕作できなくなった農地が増えても、限られた労力で維持していけるかが問題です。

私は4年前に高知県農村女性リーダーの嶺北地区代表になり、そのネットワーク活動を通じて県内で頑張っている人に出会いました。いろいろな出会いからパワーをもらって、自分にも何かできることがあるのではと思うようになりました。

出会いは宝。堀内佳さんの歌を多くの人に聞いてもらって元気になってもらいたい、出会いの場を広げたい、棚田を多くの人に見てもらいたい、という思いで棚田コンサートを提案しました。たくさんの人の力で実現することができ、本当に嬉しかったです。

また、高知県のブランド牛 土佐赤牛が幻の牛にならないように頑張ってお飼育していきたいし、「土佐・天空の郷」を作ることで、もっともっと消費者に喜ばれるおいしいお米を作りたいと思うようになりました。今年からは吉延ライスセンターを拠点に、みんなで力を合わせて活動していきたいです。

知事： 堀内佳さんの棚田コンサート、私も行かせていただきました。堀内さんの歌も素晴らしいんですけど、本当に棚田がきれいでしたね。来られていた多くの方がそう思ったと思いますよ。いつまでも居たいような感じでしたね。

棚田は本当に斜面が多くて大変なんでしょうけど、逆に（資源として）生かされて素晴らしいことだと思います。そして産業振興計画の関係でいけば、一番嬉しいのは、コンテストで日本一となった「天空の郷」ですね。米どころのお米が一挙に集まった中での日本一、本当におめでとうございます。足りないくらい売れているんでしょう。

吉延の皆さんは、集落営農の取り組みを、最先端でやっておられることだと思います。

こうち型集落営農の取り組みは、現金化できるいろいろな作物をその集落の中で、その農村の皆さんの協同で生産していただく仕組みを作り上げようというものです。中でも、拠点ビジネスというものに今後大いに力を入れていきたいと考えているところです。例えば農産加工機械や施設整備、グリーンツーリズム、農家レストランや直販所の整備など、要するに一次産業をドンと基軸に据えておきながら、それを材料とした加工の分野に展開

をしていく取り組みが挙げられます。さらには、その一次産業の生産地の良さを生かして、グリーンツーリズムということになると思いますが、交流人口の拡大、観光などの取り組みも是非応援をしていきたいと考えています。

元々高知県は一次産業が強い県です。しかし、素材はすごくいいものがとれるのに、加工をしていないと言われます。他の県、都会近郊の千葉とか茨城などには、技術がどんどん上がって素材の良さは追いつかれるところもあります。そんな中で、素材の良さに加えて加工していく取り組みを是非進めていきたい、さらに、交流人口の拡大、観光客の皆さんや移住の方にも来てもらって、全体としての元気を取り戻していきたいと思っています。一次産業を真ん中にドンと据えて、関連産業の裾野が広がっていくような、富士山のような形の産業構造というのを是非目指していきたいです。

これを是非、集落ごとに進めていきたいと思っておりますが、吉延の皆さんはまさにこのような取り組みをやっておられるわけですね。「天空の郷」、そしてその関連で、米粉の加工の取り組みをされて、合わせて交流人口の拡大ということで棚田コンサートなどを企画されています。それぞれの地域によって特徴が違うと思うんですが、是非こういう形で、集落ごとの地力を増していくような取り組みを強めていきたいなと考えています。先輩格としていろいろとアドバイスをいただければと思います。